

都中道研

第一三四号



副会長 生野まゆみ（調布市立神代中学校長）

令和七年度を振り返りますと、本研究会は、年度当初に会長が掲げた研究テーマ「人間としての生き方について考えを深める道徳科の指導の工夫」を昨年度に引き続き据え、さらに「補い・深め・発展させることを留意した取組の充実」を副題として、道徳科の位置づけをより明確にしながら研究を進めてまいりました。道徳教育の「要」としての道徳科をどのように充実させていくかを整理することを目標に、会員一人ひとりが自校の実践と向き合い、互いに学び合いながら歩みを進めてきた一年であったと感じております。

本年度の主な活動としては、第五十九回全日本中学校道徳教育研究大会岐阜大会、第五十四回関東甲信越中学校道徳教育研究大会山梨大会への参加をはじめ、令和七年度東京都中学校道徳教育研究会

研究発表大会の開催に向けた準備と検討を重ねてまいりました。

また、令和八年度に東京都で開催される第六十回全日本中学校道徳教育研究大会および第五十五回関東甲信越中学校道徳教育研究大会での発表に向け、各地区が協力しながら研究の方向性を共有し、実践の蓄積を進めております。

さらに、全公立中学校を対象とした道徳教育推進状況アンケートの実施と集約・分析にも取り組みました。学校現場の実態を丁寧に把握し、今後の研究会活動に生かすための基礎資料として大変貴重な成果を得ることができました。

これらの活動が滞りなく進められましたのは、日頃よりご指導・ご支援を賜っている教育委員会の皆様、校長会・副校長会をはじめとする関係諸機関の皆様、そして研究会活動にご指導、ご助言くださった相談役・顧問の皆様、研究活動に真摯に取り組んでくださった会員の皆様方のお力添えの賜物であり、心より感謝申し上げます。

事務局だより

事務局長 門脇 利種

（小金井市立小金井第一中学校長）

令和八年度の活動予定

一 令和八年度活動予定

会場等詳細についてはホームページでお知らせいたします。

（一）総会・研修会

令和八年六月

（二）第一回部員総会・研修会

令和八年八月

（三）第五十六回研究発表大会

令和八年十一月五日・六日

（四）第二回部員総会・研修会

令和九年一月

二 全国大会・関東甲信越大会

日程等は次の通りです。変更が生じる可能性もあります。詳細はホームページでお知らせします。

○第六十回全日本中学校道徳教育研究大会東京大会

○第五十五回関東甲信越中学校道徳教育研究大会東京大会

令和八年十一月五日（木）

六日（金）

一日目

開会行事・授業公開・研究協議・課題別分科会・懇親会

二日目

指導講話・記念講演・閉会行事

【メイン会場】

板橋区立文化会館大ホール

【学校会場】

板橋区立赤塚第二中学校

大会主題は、「人間としての生き方について考えを深める道徳科の指導の工夫」―補い、深め、発展させることを留意した取組の充実―です。

第二分科会A「道徳科における個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」、第三分科会「道徳科における補助教材（副教材）の効果的な活用」、第四分科会「今日的な課題や地域特性を生かした道徳科の推進」について、東京都中学校道徳教育研究会では、研究発表を行う予定です。

令和七年度研究部活動報告

研究部長 池田 和幸

(杉並区立天沼中学校長)

本年度もこれまでと同様、会場とオンラインを併用したハイブリッド型の研究部会を開催しました。研究主題を「人間としての生き方について考えを深める道徳科の指導の工夫」として、一年間の研究活動を行いました。

大会に向けて

四月から一〇月まで全中道岐阜大会、関東ブロック山梨大会に向けた研究について、研究部内で検討を行いながら研究の積み上げを行いました。

全中道岐阜大会では、多摩市立多摩永山中学校松村孝幸先生が、自校の特色ある教育活動と道徳教育の関連性を高めるために工夫してきた実践をまとめ、「特色ある教育活動を活かした道徳教育の推進」活用できる道徳教育全体計画別葉の工夫」と題して発表を行いました。ESDと七つの習慣という自校の特色ある教育活動が道徳教育との関連性があまり意識されずに実施されていたことから、全体計画の別葉を工夫し、職員全員が活用しやすいようにしたこと

やESDの年間指導計画の中に、道徳の内容項目の関連を明記するなどの改善を行いました。道徳の授業の中でも七つの習慣との関連を意識させる取組などを通して、道徳教育の成果が得られた実践を発表しました。

関東ブロック山梨大会では、杉並区立泉南中学校金子太翼先生が、「ウェルビーイングの向上を目指した道徳科授業の実践」と題して、紙上発表を行いました。

ウェルビーイングという概念の中から、特に利他性と自己肯定感の二点に着目し、道徳科の授業の実践の工夫を通して、生徒の利他性と自己肯定感の向上を目指して取り組んだ実践を発表しました。ウェルビーイングという近年用いられるようになった概念ですが、その捉え方は様々であり、利他性と自己肯定感に着目して実践を行ったことで、視点が明確になり、生徒の成長を感じやすくなりました。一方で、ウェルビーイングという概念が新しく唱えられるようになったものであり、道徳教育における明確な視点が定まってい

(二) 研究発表大会に向けて

一月から二月の研究発表大会に向けて、次年度の全中道東京大会を見据え、東京が担当する課題別分科会のテーマ毎に三分科会に分けて研究を進めました。A分科会は、「道徳科における個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」B分科会は、「道徳科における補助教材(副教材)の効果的な活用」C分科会は「今日的な課題や地域特性を生かした道徳科の推進」というテーマのもと、生徒が人間としての生き方を深めることができる道徳科の教材を選定しました。

その後指導案の作成を行い、分科会ごとに発問の検討、指導の工夫について検討を重ね、指導案を練り上げていきました。

A分科会では、生徒同士の対話の中から、様々な道徳的価値に触れ、生徒がねらいと異なる考えを深めることも許容していくことで協働的な学びと個別最適な学びの一体的な充実を図りました。

B分科会では、既習の教材を副教材として用いることで、登場人物の生き方を比較し、考えを深めさせることで、副教材の効果的な活用を図りました。

C分科会では、今日的な課題としていじめ問題を取り上げ、いじめの構造を理解させ、被害者、加害者だけではなく、傍観者としての立場にも着目させ、考えを深めさせるように工夫しました。

第五十五回東京都中学校道徳教育研究発表大会

令和八年二月一〇日(火)

(会場) 国分寺市立第四中学校

【公開授業】

国分寺市立第四中学校一学年・二学年に研究部員が授業を行いました。

C分科会

教材「魚の涙」出典 中学生の道徳1 あかつき教育図書刊

内容項目 C 公正、公平、社会正義

一年C組

(授業者) 世田谷区立桜丘中学校

大谷 秋音 教諭

一年D組

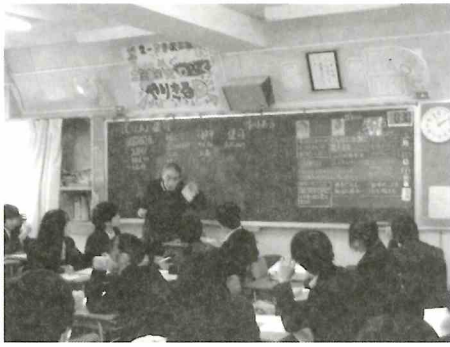
(授業者) 小平市立立花小金井南中学校

武田 彩 主任教諭

B分科会

教材「二通の手紙」出典 私たちの道徳 文部科学省刊

内容項目 C 遵法精神、社会正義



二年A組

(授業者) 板橋区立桜川中学校

荒幡 智佳 教諭

二年B組

(授業者) 国分寺市立第四中学校

荒井 雄平 教諭

A分科会

教材「六千人の命のジザ」出典

新しい道徳2 東京書籍刊

内容項目 C 国際理解、国際貢献

二年C組

(授業者) 大田区立東蒲中学校

木嶋 美優 主任教諭

教材 「違うんだよ、健司」出典

中学校道徳読み物資料集 文部科学省刊

内容項目 B 友情、信頼

二年D組

(授業者) 八王子市立宮上中学校

海老澤 宏 主幹教諭

【協議会】

①分科会テーマについて

②授業者自評

③質疑応答

協議会は、分科会ごとに分かれ分科会テーマと授業の関連について発表し、各授業者の自評と参加者からの質疑応答を行いました。

【研究発表】

①会長挨拶

板橋区立赤塚第二中学校

木村 知広 校長

②研究部長より

研究主題、活動の概要、教材選定の理由

杉並区立天沼中学校

池田 和幸 校長

③指導講評・講話

「人間としての生き方について考える道徳科の授業とは」

講師 國學院大學文学部教授

(元国立教育政策研究所教科調査官)

澤田 浩一 先生

澤田先生から、当日の授業を踏まえて、人間としての生き方について考えを深めるといふ視点から、どのような発問や指導の流れを工夫すること、人間としての生き方について考えを深めることができるのか、具体的なご助言をいた

だきました。人間は気高さや崇高さだけでなく、弱さや醜さを併せもった存在であり、人はなぜ生きるのか、人生観について考えさせることが人間としての生き方について考えるということになるというお話をいただきました。

(三) アンケート調査について
本年度も道徳教育の充実に係るアンケート調査を実施しました。本年度は昨年度よりも多くの学校から回答をいただきました。アンケート調査の結果と考察は研究紀要に載せていきます。

本年度の成果をもとに次年度更なる研究の深化を図り、約半年後に迫った全国大会につなげていきます。詳しい研究のまとめは、年度末に発行する研究紀要をご参照いただければと思います。一年間様々な皆様のお力を借りて研究活動を進めることができました。関係した皆様に感謝を申し上げます。

令和七年度の後期活動報告
事務局長 門脇 利種
(小金井市立小金井第一中学校長)

一 全国大会・関東甲信越大会
第五十九回全日本中学校道徳教育研究大会岐阜大会において、大会主題「自他ともによりよい生き

方を求め、実践する生徒を育てる道徳教育はどうあるべきか」を受け、第四分科会テーマ「道徳科と他の教育活動との関連」について、松村 孝幸研究部員(多摩市立多摩永山中学校)が研究報告を行いました。また、第五十四回関東甲信越中学校道徳教育研究大会山梨大会において、大会主題「多様化、個別化する社会の中で、ともに考え、よりよく生きる力を育む道徳教育」を受け、第四分科会のテーマ「ウェルビーイングを目指した道徳の授業」について金子 太翼研究部員(杉並区立泉南中学校)が研究報告を行いました。

二 第二回部員総会・研修会

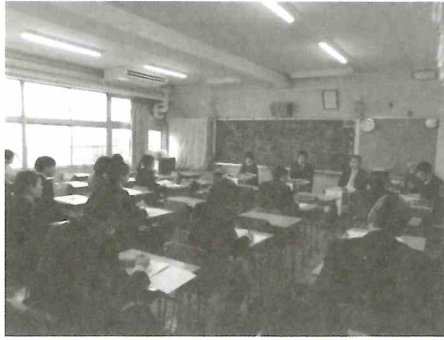
令和八年一月十六日(金)に、セシオン杉並にて、第二回部員総会・研修会が行われました。

(一) 部員総会

各部より進捗状況と、部員への周知事項の報告がありました。

(二) 研修会

松村 孝幸研究部員(多摩市立多摩永山中学校)、金子 太翼研究部員(杉並区立泉南中学校)が全国大会・関東甲信越大会についての報告を行いました。



(三) 研修会

グループに分かれて教材分析の研究協議を行いました。

三 第五十五回東京都中学校道徳教育研究会研究発表大会

令和八年二月十日(火)

会場 国分寺市立第四中学校

(一) 公開授業

東京都中学校道徳教育研究会研究部員と第四中学校教員による公開授業を二学年六学級で実施しました。

(二) 協議会

授業後三グループに分かれて協議会を行いました。

(三) 研究発表

池田 和幸研究部長(杉並区立天沼中学校長)から、大会主題の「人間としての生き方について考えを深める道徳科の指導の工夫」について発表がありました。

(四) 指導講評・講話

國學院大學文学部教授、元国立教育政策研究所教科調査官 澤田浩一先生より、「人間としての生き方について考える道徳科の授業とは」を演題に指導講評・講話をいただきました。

(講話の一部を紹介します)

道徳の学習は、既に知っていると思っている価値を改めて問い直す営みであり、「知っていること」と「行えること」は異なること述べられ、徳は教え込むものではなく、行為として身に付けてこそ意味をもつ。教師が答えを示すのではなく、生徒とともに考え続ける姿勢が重要であると強調されました。

教材研究では、まず物語全体を素直に読み、あらすじを的確にかむことが大切であると示されました。登場人物の心理だけでなく、物語に描かれた道徳的価値の構図を捉えることで授業の骨格が定まり、発問も焦点化されることと示されました。

「夜の果物屋」は、思いやりの本質を考える教材であり、行為の中に価値が描かれていること、読み物教材は想像力を育てる点で意義が大きいことが述べられました。

「違うんだよ、健司」では、友情・敬愛・人格といった言葉の意味を丁寧に捉える重要性が示されました。自分に都合のよい関係ではなく、相手をもう一人の自己のように大切に作る関係こそが真の友情であり、友情を築くには時間が必要であると語られました。

「六千人の命のビザ」は、単なる国際理解教材ではなく、思いやりや社会的責任、国益、人間としての在り方が重層的に絡み合う教材であると説明されました。杉原千畝さんの葛藤を通して、「人間としてどう生きるか」を問う教材であると示されました。

「魚の涙」では、いじめを行為の是非だけでなく、その背景にある人間性や生き方まで視野を広げて考える必要性が指摘されました。

「二通の手紙」では、「なぜ晴れと辞めたのか」という問いの重要性が示され、結果に関わる適法性だけでなく動機に関わる道徳性に目を向けることが教材理解の鍵であると述べられました。

終盤では、「楽しい授業」について触れられ、自分の主体的な愉しさではなく、命の根源に触れるような感動を伴う学びこそが、生

きる意味の実感につながると語られました。

最後に、道徳科の授業において最も大切なのは教師の基本的な態度であると結ばれました。晴れやかさ、教育者としてのユーモア、そして温かな善意のもとでこそ、生徒とともに「人間としてどう生きるか」を考える時間が成立すると締めくくられました。

編集後記

日頃より、都中道研の活動にご理解、ご協力いただき、ありがとうございます。

この度、広報第一三四号をお届けいたします。今後も、ご協力の程、よろしくお願いいたします。

広報部

部長 佐藤 正敏

副部長 高橋 優子
(足立区立蒲原中学校副校長)

都中道のホームページ

<https://www.3school.web.ne.jp/swas/index.php?id=1350004>

